

「キリストを真に知り続ける」

コロサイ 2：1－2

堀田修一 25・8・10

I 苦闘を知ってほしい。「私が、あなたがたやラオディキヤの人たちのために、そのほか私と直接顔を合わせたことがない人たちのために、どんなに苦闘しているか、知ってほしいと思います」：1。

1. この時、パウロは牢の中にいて、ネロ皇帝の前で行われる裁きを待つ身だった。もしくは死刑を宣告されるかもしれない情勢だった。このような時、弱気になり、身の安全のために福音を放棄する誘惑、悪魔の戦いもあったことだろう。しかし彼は、教会を迫害した自分を心から愛し赦し救われた主、すべての人種、国々の人々を愛し救いのためにご自身のいのちを捨てられた主を愛して主の道に従っていた。そこには苦闘があった。主の力強い支えもあった。私たちにも。「自分のうちに力強く働くキリストの力（感謝します）によって、労苦しながら奮闘しています」1：29。

2. パウロはⅡコリント6：4～10でこう証ししている。私たちも励まされる。「非常な忍耐と、悩みと、苦しみと、嘆きの中で、また、むち打たれるときにも、入獄にも、暴動にも、労役にも、徹夜にも…ほめられたり、そしられたり、悪評を受けたり、好評を博したり…私たちは人をだます者のように見えても、真実であり…死にそうでも、見よ、生きており、罰せられているようであっても、殺されず、悲しんでいるようでも、いつも喜んでおり、貧しいようでも、多くの人を富ませ、何も持たないようでも、すべてのものを持っています」。

Ⅱ「私が苦闘しているのは、この人たちが愛のうちに結び合わされて心に励ましを受け、さらに、理解することで豊かな全き確信に達し、神の奥義であるキリストを知るようになるためです」：2。

1. あて先の読者が「心に励ましを受ける」ため。当時、異端の教師は、異なる福音を宣伝していたため、コロサイの信徒のうちには動揺と憂慮があったと思われる。そんな彼らが、自分たちより何倍もつらい中でパウロが自分のうちに力強く働く主の力によって福音のために苦闘し、主を愛しているかを知る時、心に大きな励ましを受ける。私たちも、共感の心もなく、上からの態度で励まされても励まされない。しかし、主に愛され主を愛している人が、どんなに苦闘しているか、その中で主に忠実に仕えているか知らされる時、心に励ましを受け、自分も苦しみがある中で主に仕えようとの志を新たにされる。

2. 彼らが「愛のうちに結び合わされる」ため。愛の対極にある私たちの神と人を支配しようとする心、罪の心、自我、憎しみ、恨み、ねたみ、復讐心、貪欲は、互いを結び合わせるのではなく、分裂、分派を生み、互いの関係を壊し裂いて行く。バラバラにして行く。しかし教会のかしらである主のくださる愛は、私たちを結び合わせる。「このかしら（キリスト）がもとになり、からだ全体は、関節と筋によって養われ、結び合わされて、神によって成長させられるのです」2：19。「キリストによって…結び合わされ、成長して、愛のうちに建てられるのです」

(エペソ4：16)。主の愛は、愛によって結び合わされる聖徒の交わりを生み出す。「神が光の中におられるように、私たちも光の中（自分の罪を告白し、光である神との交わりの中）を歩んでいるなら、私たちは互いに交わりを保ち、御子イエスの血はすべての罪から私たちをきよめます」(Iヨハネ1：7)。

3. 「理解することで豊かな全き確信に達し、神の奥義であるキリストを知るようになるためです」：2。i キリストを深く真に知るようになることは、神の第一のみこころ、求めておられること。「主を知ること切に求めよう…むしろ神を知ること喜び」ホセア6：3、6。最も大切な救い、永遠のいのちの中心＝「永遠のいのちとは、彼らが唯一のまことの神であるあなたと、あなたの遣わされたイエス・キリストとを知(り続け)ることです」ヨハ17：3。パウロの究極の願い＝「キリストを知ること」ピリピ3：10。主を信じて終わりではなく、その後も、もっと深く主を知り続けることが、私たちの生きる目的。

ii 「主について」知る知識と「主ご自身を」知ることは違う。主を真に深く知り続けるには→
①祈りつつ主のみことば、聖書を読み味わう。：2の「理解をもって豊かな全き確信に達し」は、聖霊とみことばによる。みことばを思い巡らし、心の中で反芻する、ねり食む。「主のおしえを喜びとし、昼も夜もそのおしえを口ずさむ(思い巡らす。反芻する)」詩篇1：2。みことばから主なる神の義と愛を十字架と復活から知る。

②祈り。神との深い交わり。静まり、神ご自身を慕い求める。「鹿が谷川の流れを慕いあえぐように、神よ。私のたましいはあなたを慕いあえぎます。私のたましいは、神を、生ける神を求めて渴いています」詩42：1，2。私たちは、神の恵み、赦し、祝福を求める。神は、私たちの正直な祈りを喜ばれる。しかし、神の祝福を求めるだけではなく、神の祝福以上に神ご自身を慕い求めているだろうか。「『喜びではなく神を求めよ』…もしあなたが神のみを求めるなら、あなたは喜びを受けるであろう」(ボンヘッファー)。マタイ5：6。主は、私たちの持っている何かではなく、私たち自身、存在を愛しておられ(「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している」イザ43：4) 私たち自身との深い人格的な交わりを求めておられる。私たちはどうだろうか。神の持つておられる何かをいつも求めているか。それとも神ご自身を慕い求めて神との交わりを最高の至福の時として大切にしているか。人への愛も、人の物を求めているかその人を大切にしているか。「私にとって神の近くにいたことが、しあわせなのです」73：28。沈黙の祈りの時の尊さ。「私のたましいは黙って、ただ神を待ち望む」62：1。一方的祈りではなく、主の前に静まり、主に思いを向け、ご臨在に憩う。「私のたましいよ。おまえの全きいこいに戻れ。主はおまえに、良くしてくださったからだ」詩116：7。主の光により自分の罪が示されることがある。それを主に告白し赦され、また主に心を向ける。

③日常生活の中で主が働いておられる恵みを体験する。i 人生の中で主を信じ主と出会う最高の体験。ii 私は人生の中で何度も生きておられる主を体験させていただいている。証し：主が備えられた方。「ついて来て下さい」iii 主を信じた後、数々の試練の中で主が支えて下さる体験。iv 個人と教会の必要(土地、会堂、一般会計、設備会計他)を満たして下さる体験。v 辛い体験をしている人に掛ける言葉もなく、祈り続ける中、その人から「会ってお話したい」と言われる神による奇跡。vi 祈りつつ主を伝えても「主を信じない」と言われる方が、神の全能の働きで主を信じられる奇跡。vii 戦争や原爆、核拡充が止まらない世の悪の暗闇で失望しそうになる私たちに、神は聖書全体を通して「いと高き方(天地万物の創造の神)が人間の国を支配しておられる」(ダニエル4：25-27)と語られる。神はすべてを知っておられる。神は世界

の歴史においても、個人の人生においても、すべてを支配し、最終的な決定をされる。神の国と神の義は、主の再臨の時、最後には勝つのです。人も悪魔も全能の神の最終的な勝利を妨げることとはできないと知り確信し絶望しそうな時も神を見上げて祈りましょう！罪を悔い改めなければ、裁かれ滅び、罪を認め主を信じるなら永遠の救いを与えられるとの福音を伝え続けましょう。伝えても主を信じない人がおられても、失望せず神に委ね祈り続けましょう！祈りを通して全能の神は、人々の心に働かれる！

- ④自分が神を知り、神が自分を知っていてくださることを心から信じ、この愛の関係の故に、生きている時も、死を迎えても、永遠に神の愛と恵みと救いが与えられていると信じ知り確信し、真の平安、安らぎに憩いましょう。また、そのようにし続ける事が出来るように祈りましょう！

祈り：私たちが、主と深く交わり、愛によって互いに結び合わされつつ主を真に知り続けることができますように。「なお深く主を、なお深く主を、なおも我がためにみうせし主を知らん」聖歌594